

## シエ・アイオ道中献立記

39番・37番・24番・38番・28番・41番・33番・  
35番・34番・27番・36番・31番札所篇  
令和4年11月13日



## 秋穂八十八ヶ所霊場



写真：ホシノサトコ



### 秋穂地域とお遍路

秋穂地域は、山口県南部に位置する穏やかな街。かつては瀬戸内海や山陽道を人々が盛んに行き交い、古くから内外の文化的交差点となってきた地域です。

そうした歴史を裏付けるかのように、この地には「秋穂八十八ヶ所霊場」が二三〇年以上にもわたって続いています。

この始まりは、秋穂生まれのお坊さん、性海法師。別府の湯にて、悪行で熱湯地獄に沈む老婆を見て因縁の意味を悟り、そのまま四国遍路に。霊場ごとの御符と御砂を持ち帰り、すぐ霊場開設に動いたとのこと。こうして全長約四十八kmの巡礼路が山口に誕生しました。





## お遍路について

「お大師まいり」とは、弘法大師(空海)の徳をお慕いし、自身の修行として、ご縁深き札所を巡ることが起源です。心穏やかに感謝の気持ちで巡りましょう。

## お接待について

無理をして豪華なおもてなしをするのではなく、その季節に地域で採れるものを中心としたお料理です。秋穂地域の秋の味覚を存分にご堪能ください。





## シェ・アイオについて



### シェ・アイオの目的

二三〇年以上受け継がれてきた「秋穂八十八ヶ所霊場」は、高齢化やお賽銭の減少、かつてのお接待内容が忘れられつつあるなどの課題に直面しつつあります。

また、札所の信仰の場としての役割と「もっと賑わいを」という観光のバランスの問題も見えてきました。

しかし、信仰でも観光でも「食を楽しむ」事は同じではないかと思ひ、私たちは二つを繋ぐマグネツトとしての「食」の力に注目しました。

今日でも、弘法大師ゆかりの旧暦三月二十・二十一日の弘法忌(秋穂八十八ヶ所お大師まいり)には、巡礼に来られたお遍路さんに対し、各札所において地元の人たちによる心のこもったお接待が見られます。





課題1

高齢化による  
人手不足



【支える】  
のシェア

課題2

札所の  
維持管理



【資源】  
のシェア

課題3

記憶の継承



【知恵】  
のシェア



作って、歩いて、味わう  
旅するガストロノミーツーリズム

“シェア” + “秋穂” >> “シェ・アイオ”



## 巡礼地について



### 秋穂八十八ヶ所霊場の成り立ち



今から二三〇年前に遍明院の法印が弟子を連れて四国八十八ヶ所霊場を巡礼し、各札所で御符(御符)と敷地の砂を持ち帰りました。四国八十八ヶ所霊場の写し仏を祀って砂を踏みながら礼拝すると、四国を巡ったことと同じ功德が得られるとされています。法印は、秋穂・大海・二島・名田島の各村々に場所を定めて、砂をまき、御符(ごふ)をお供えして札所とし、秋穂八十八ヶ所霊場となつて今でも残っているのです。

今回巡礼するのは「三十九番、三十七番、二十四番、三十八番、二十八番、四十一番、三十三番、三十五番、三十四番、二十七番、三十六番、三十一番」の十二ヶ所の札所です。

## 禅光院本堂

第37番・39番札所

37番：弘法大師  
39番：阿弥陀如来



禅光院本堂にある37番札所は、元々「菩提寺」という寺の阿弥陀堂にあった。この寺は廃仏毀釈によって廃寺になったが、1869年に防府多々良から禅光院が移され再興された。

同じく本堂にある39番札所の阿弥陀如来は、菩提寺と呼ばれていたこの頃から、変わることなく受け継がれている。



## 禅光院境内

第24番・38番札所

24番・38番：如意輪観音



24・38番ともに、元々は別の場所にあったもの。24番札所は23・25番札所の中間地点あたりの地藏堂に、38番札所は遍明院峠付近の地藏堂に置かれていた。その後、地藏堂の住職が不在になってしまったため、まとめて禅光院観音堂に移された。堂内に向かって右に24番、左に38番がまつられている。



## 遍明院 第28番札所



28番：阿弥陀如来



遍明院は秋穂八十八ヶ所霊場の成り立ちに深く関わりがある。

遍明院第八世の住職であった性海法師は弟子の戒屋作右衛門と共に四国八十八ヶ所を巡り、御砂を秋穂・二島に定めて奉安し、秋穂八十八ヶ所霊場を開いた。

二方は遍明院の開山堂にまつられている。



## 秋穂農協協大師堂 第41番札所

41番：聖如意輪観音



41番札所はもともと下村の二尊堂にあった。二尊堂は現在の秋穂小学校敷地内に当たる。明治16-17年頃、この場所に小学校建設の話が持ち上がり、札所は付近の大師堂に移されることとなった。その後、さらに遍明院へ移され、最終的に現在の農協協へと移されたのである。現在地はかつて地藏堂があった場所で、付近の人々がまつっている。





## 善城寺山門外大師堂 第33番札所

33番：弘法大師



33番札所はかつて毘沙門堂にあったが、平成3年に現在の場所に移されている。

「33」は女性の厄年を表す数であり、弘法大師は“厄除け大師”とも呼ばれていることから、厄年の女性参拝者が多いそう。



## 善城寺 第35・34・27番札所

35番：地藏菩薩  
34番：薬師如来  
27番：十一面観音



善城寺は真言宗の寺院で、中世荘園時代の古文書が現存する由緒ある寺院である。かつて、34番は善城寺の鎮守稲荷社、35番は天神社、27番は秋穂浦の祇園社にあったが、神仏習合などにより現在の場所に移された。また、本堂前のタブの古木は山口市指定の天然記念物であり、根元には弘法大師がまつられている。



## 善城寺裏山

第36・31番札所

36番：不動明王

31番：聖観世音菩薩



31番札所の善城寺観音堂はかつて東泉寺観音堂と称し、善城寺南方にあった。善城寺古文書によると、本尊の聖観音菩薩像は鎌倉時代の作という。

現在は善城寺山頂近くの毘沙門堂傍に移り、36番札所の不動明堂が隣に新設された。不動明堂は明治初年まで山頂付近にあった毘沙門堂に置かれていた。



長州八幡隊志士

## 吉岡新太郎・おまさの墓



長州八幡隊志士である吉岡新太郎と、難波の商人の二女であるまさの墓。大阪で出会い恋に落ちた二人、吉岡が秋穂二島にもどった後、まさもこれを追いかけて秋穂へやってくる。しかし、二人の恋は当時では到底許されず、叶わぬ恋と悟った二人は秋穂の宿で心中した。この墓は哀れに思った秋穂の有志によって建てられたものである。



## 巡礼MAP

今回の巡礼コースは約3kmです  
坂や階段もありますので自分のペースでゆったり歩きましょう



— 秋穂保健センターから①地点まで	300m	3分
— ①地点から②地点まで	100m	1分
— ②地点から③地点まで	400m	6分
— ③地点から④地点まで	800m	10分
— ④地点から⑤地点まで	600m	8分
— ⑤地点から秋穂保健センターまで	1000m	15分

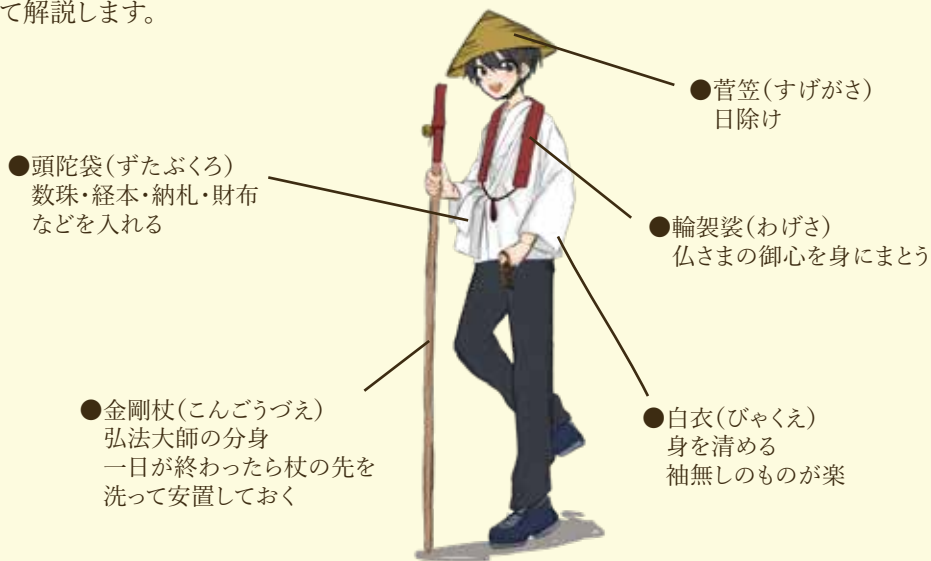


## 巡礼のすすめ

堅く考えず、まずは休憩をしながら気軽に歩いてみましょう  
遍路の作法や巡礼する札所の御本尊について少しだけご紹介します

### ★ 遍路の服装

シェ・アイオではお遍路に親しんでいただくために、服装の指定をしていません。しかし、一般的にみられるお遍路さんは特別な服装をしています。ここではその服装の意味について解説します。



### ★ 参拝の作法

札所を参拝する際の基本的な手順です。  
お経が難しい時はまずは御真言から始めてみましょう。

一、山門で合掌し一礼

二、手水場で手を洗い口をすすぐ。

三、鐘をつく(参拝後はつかない)。

四、本堂(札所)へお参りする。

い、ろうソクと線香をあげる。

ろ、鰐口を鳴らす。

は、納札や写経を納める。

★納札には住所、名前を書く。

に、お賽銭をお供えする。

★投げずに賽銭箱に落とす。

ほ、数珠を左手に、合掌して一礼。経本を持って読経する。

五、山門を出て一礼して退出する。山門がない場合は読経後に一礼する。

★参拝後、納札帳に朱印をもらう。



## ☆ご本尊様の紹介

札所には様々なご本尊様がいらつしやいます。ここでは今回  
巡礼する札所のご本尊様と御真言について紹介します。

### ●三十七番・三十三番札所 弘法大師

平安時代初期の僧。真言中の開祖。

御真言 なむ だいし へんじょう こんごう

### ●三十九番・二十八番札所 阿弥陀如来

熱心に信仰していると、極楽浄土に連れて行ってもらえる。

御真言 おん あみりた ていせい から うん

### ●二十四番・三十八番・四十一番札所 如意輪観音

全ての願いを叶える仏様。特に知恵と財宝にご利益がある。

御真言 おん ほんどめい しんだまに じんばら うん

### ●三十五番札所 地藏菩薩

弥勒菩薩が仏様になる五十六億七千万年の間、命あるものすべて  
を救済する菩薩。

御真言 おん かかかび さんまえい そわか

### ●三十四番札所 薬師如来

病を癒す仏様。三途の川への旅立ちを見守る。

御真言 おん ころころ せんだり まとおぎ そわか

### ●二十七番札所 十一面観音

苦しんでいる人を見つげるために、お顔を十一個持つ仏様。延命・  
病氣治癒などの御利益がある。

御真言 おん まきやろにぎや そわか

### ●三十六番札所 不動明王

どんな悪人も仏道に導く大日如来の化身。仏道に入った修行者  
を守り、全ての煩惱を焼き払う。

御真言 のうまくさんまんだ ばだらだん せんだ

まかろしゃだ そわたや うんたらたかんまん

### ●三十一番札所 観世音菩薩

観自在菩薩とも呼ばれる。世の中の全てを見通し、救う。

御真言 おん ありりきや そわか

真言とは

密教で、仏・菩薩などの偽りのない真実の言葉

納札とは

お遍路さんが参拝した証として札所に奉納する札





※画像はイメージです。

## お接待料理レシピ



### お接待料理について

今回は秋穂地域に伝わるお接待料理や、季節の食材を使ったお料理をメニューにしています。是非、秋穂お遍路の味をお家でも味わってみてください。



### — 献立 —

- 一、ささげ豆ごはん
- 二、けんちょう
- 三、金の天幸（ふかし芋）
- 四、ちしやなます
- 五、秋の夕暮れ（柿の寒天）
- 六、呉汁





## ささげ豆ごはん

ささげ豆ごはんは、秋穂地域でお遍路さんに提供しているお接待料理の一つです。

### 材料(4人分)

- ・米・・・3合
- ・ささげ豆・・・80g
- ・豆の煮汁・・・2カップ
- ・塩・・・少々

★塩むすびにするとおいしいです。

### 作り方

1. 鍋にささげ豆と水を入れ、一度沸騰させ、あく抜きをする。
2. 鍋の水を入れ替えて、ささげ豆の芯が残る程度まで煮詰める。  
※豆の煮汁は分量とっておく。
3. 炊飯器に材料を全て入れ、水を入れ、炊き上げる。





## けんちょう

山口県の郷土料理であり、精進料理でもあります。季節や家庭によって具材も変わってきます。

### 材料(4人分)

- ・豆腐・・・1/3丁
  - ・大根・・・1/8本
  - ・人参・・・1/4本
  - ・こんにゃく・・・1/4枚
  - ・干し椎茸・・・1枚
  - ・昆布・・・10cm
  - ・砂糖・・・大さじ1
  - ・みりん・・・大さじ1
  - ・酒・・・大さじ1
  - ・椎茸の戻し汁・・・30cc
  - ・和風だし(顆粒)・・・1/2袋
  - ・醤油・・・大さじ1
  - ・油・・・大さじ1
- ★大根が崩れない程度に煮込むと丁度良いです。

### 作り方

- 1.豆腐はラップ無しで電子レンジに4-5分かけ、水気をとる。
- 2.大根と人参は3mmくらいのいちよう切りにする。
- 3.干し椎茸と昆布は水で戻して3mmくらいに切る。  
※戻し汁はとっておく。
- 4.こんにゃくは薄く切るか、スプーンでくり抜いたものを熱湯に入れ、軽く煮てざるにあげておく。
- 5.鍋に油を熱し、豆腐を入れ、よく炒める。
- 6.大根、人参を加えて炒め、しんなりしてきたら椎茸、昆布、こんにゃく、椎茸と昆布の戻し汁、調味料を加えて煮込む。







材料(4人分)

- ・さつまいも・・・1本
- ・塩・・・少々

## 金の天幸（ふかし芋）

秋穂八十八ヶ所がよく提供されているお接待料理です。

作り方

1. さつまいもを食べやすい大きさに切る。
2. 鍋にさつまいもと塩を加え、火が通るまで蒸す。



材料(4人分)

- ・かきちしゃ(サニーレタス)・・・4枚
- ・かえりいりこ・・・適量
- ・砂糖・・・大さじ1/3
- ・酢・・・大さじ2/3
- ・麦みそ・・・大さじ1/3

## ちしゃなます

精進料理として提供する場合には「いりこ」を「昆布だし」にして作ります。

作り方

1. いりこの頭を取り、フライパンで炒る。
2. いりこをすり潰す。
3. ボウルに麦みそ、砂糖、酢、いりこを加えて混ぜる。
4. ちしゃは食べやすい大きさに手でちぎって入れ、混ぜ合わせる。





## 秋の夕暮れ

秋の味覚を使った創作料理です。季節によってトマトや人参など、旬の食材に変えても楽しめます。

### 材料(4人分)

- ・柿・・・1個
- ・砂糖入り寒天・・・28g
- ・熱湯・・・120ml

### 作り方

1. 柿を薄いいちょう切りにして容器に入れる。
2. 熱湯に砂糖入り寒天を溶かし、容器に流し込む。
3. 固まったら切り分ける。





## 呉汁

文献に残るお接待料理の汁物です。すりつぶした大豆が入っています。

### 材料(4人分)

- ・大豆(水煮)・・・200g
- ・かぼちゃ・・・65g
- ・えのき・・・1/3袋
- ・ねぎ(白い所)・・・1/3本
- ・わかめ・・・適量
- ・和風だし(顆粒)・・・1/2袋
- ・味噌・・・大さじ1
- ・水・・・600ml

★味噌は味を見ながら調節すると良いです。



### 作り方

- 1.大豆をすり鉢で軽く粒が残るくらいに押しつぶす。
- 2.かぼちゃは5mm幅、えのきは半分に、ねぎは斜め5mm幅に切る。
- 3.鍋に水、和風だし、大豆を入れて煮立たせる。
- 4.2-3分経ったら弱めの中火にし、かぼちゃ・えのきを加え、蓋をしてからかぼちゃが柔らかくなるまで煮る。
- 5.ねぎ・わかめを加え、蓋をして1分程煮て、弱火にして味噌を溶かし入れる。

## 協力会社紹介



### 菓秋 やませ 渡壁沙織さん

秋穂二島で和菓子の製造・販売をする「菓秋やませ」の渡壁沙織さん。一〇〇年以上愛されながらも生産者の高齢化で途絶えた「秋穂饅頭」を復活させました。

しっとりとしたカステラ生地の中に、甘さを控えた白あんが入った優しいお味のお菓子です。お遍路さんの模様がとってもキュートです。今回のシエ・アイオではこの「秋穂饅頭」をデザートに頂きました。

秋穂饅頭は「道の駅あいお」でも購入できます。是非お立ち寄りください。





## 原田丸海産

秋穂で車海老の養殖を営む「原田丸海産」。明治二十八年創業で、一〇〇年以上の歴史があります。育てる環境や餌、獲り揚げから発送まで全てにこだわって養殖しています。

シエ・アイオでは毎年「ささげ粥」をご提供いただいています。体に優しい具材たっぷり栄養満点のお粥です。

ささげ豆は炊飯時にお腹が割れないことから、縁起物として秋穂で栽培されてきました。お遍路さんへのお接待にも伝統的に振舞われた食材です。





## 未来展望



「シェ・アイオ」は作って・歩いて・味わう、札所を転々としながら会食するプロジェクト。開催の度、札所もテーマも変わる、企画そのものが旅のように霊場を巡ります。

また、「シェ・アイオ」は旅する企画。いずれは全ての札所で開催したいと考えています。秋穂地域の魅力や課題を支えることを「シェア」し、作って・歩いて・味わうことで、これからも伝統の味が守られ続けます。



## シエ・アイオ道中献立記

三十九番・三十七番・二十四番・三十八番・二十八番・四十一番・三十三番・  
三十五番・三十四番・二十七番・三十六番・三十一番 札所篇

令和四年十一月十三日 発行

### 主催・企画運営

山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科 地域文化創造論研究室  
aiohenro88プロジェクト

### 協力

菓秋やませ  
原田丸海産

### デザイン・イラスト

AYANA MAKIMURA



本企画は平成二十九年 度公益財団法人日本観光振興協会主催の全国アイデア  
コンペ「産業連携ツールズムセミナー」にて、優秀賞を受賞しました。